



「RC 造の現場監理について ～教えて欲しい事を聞いてみよう～」

今回の構造セミナーは、青年委員会と構造研究会の連携で開催されました。そこで、今回は「構造セミナー報告＋青年委員会の思い」のスペシャル版で報告致します。

セミナーのテーマは「RC 造における工事監理の基本と平成 19 年の法改正後の留意点」でした。講師による解説の後、構造設計者と工事監理者との意見交換を「ワールドカフェ」というコミュニケーション手法を採用して行いました。

日 時 : 平成 23 年 3 月 5 日 (土) 14 時 30 分～17 時
 場 所 : 神戸市すまいの安心支援センター
 「スマイルネット」セミナールーム
 参加人員 : 30名
 講 師 : 吉岡浩一氏 (構造研究会)
 パネリスト : 四宮忠明氏 (構造研究会)
 ユーディネータ : 守時靖之氏 (構造研究会)
 山本幸治氏 (青年委員会)



吉岡浩一氏

【今回の内容】

1. 梁主筋の定着長さ、カットオフ長さについて (RC 規準 2010 と 1999 との違い)

吉岡氏から、大梁主筋の直線定着の長さ L2、L3、フック付き定着の長さ L2h、L3h、大梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ La、小梁やスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ Lb について、各記号の基本的な説明がありました。

大梁主筋の一般階と最上階の定着長さの取り方、小梁主筋、スラブ筋の定着長さの取り方、壁内や幅の小さい梁内に定着するスラブや、小梁の上端筋の定着長さの取り方についての解説をして頂きました。

また、定着長さの取り方を考慮した梁主筋径と柱断面小梁主筋径と受け側の梁幅との関係について、最低限必要と考えられる断面寸法を、一般的に使用されている主筋径を例に、計算式や図入りの資料を基に、わかりやすく丁寧に説明をして頂きました。

梁主筋のカットオフ長さについての解説や注意点を始め、RC 規準の変更内容を詳しく説明して頂きました。



テーブルごとの質問に回答する四宮忠明氏

2. 構造設計者と工事監理者が異なる場合の問題点

現場トラブルの原因として、標準図の取り扱いについての事例をいくつか紹介して頂きました。

実施図では小梁の配筋を例として取り上げられ、小梁断面リストに外端、中央、内端と記載されているが、外端か内端かの判断が出来ない場合や、設備重量が構造設計時点と合致しているか、といった問題点についての解説をして頂きました。

3. 各ディテールの注意点、良くある手直しについて

鉄筋の最小かぶり厚さと設計かぶり厚さとの関係、杭基礎の場合のかぶり厚さ、柱主筋のフック付き定着長さの取り方などについての解説があり、特に、接合部の配筋の納まりが重要であるという説明がありました。

現場でよくある手直し内容としては、片持スラブ上端主筋のかぶり厚さが、異常に大きい場合を例として取り上げ、片持の構造物は特に適切なかぶり厚さの保持が大切であるとの解説をして頂きました。

4. 参加者による質疑応答について

今回のセミナーは青年委員会との共同開催ということもあり、ワールドカフェというコミュニケーション手法を採用しました。

テーブルには 5～6 人が座り、各テーブルのテーブル長が質疑内容を取りまとめて発表し、講師の先生方に回答して頂くというものです。

このような手法を採用した事で、各テーブル内での会話が活発になり、参加者個人が疑問に思うことなどの意見交換も出来たのではないかと思います。

今後もこのような手法を取り入れた、意見交換の出来る「話せるセミナー」にしたいと思いました。

ワールドカフェという手法が目指すもの

私たち青年委員会は支部での青年部会活動を通じて様々な地域貢献活動を行っています。その模様は昨年末より会報誌「つどい」内の「青年建築士の挑戦」というページで毎月紹介させて頂いておりますので、ここでの紹介は省きますが、その地域貢献活動と同様に私たち青年建築士が力を入れている事に、**青年建築士としての資質の向上**、すなわち建築士としての職務遂行能力を磨いていくという事があげられます。

建築士会から届けられる会報誌「つどい」、そしてより迅速な情報共有ツールとしての「つどいメール」によって、多くの勉強会や講習会の情報を得ることが出来るようになってきましたが、私も含めて青年建築士がそのような勉強会に参加する機会というものはお世辞にも多いとは言えないのが現状だと思います。「日々の業務に追われて時間が作れない」というのが主原因だと考えられますが、でも、本当にそうなのでしょうか。今回の勉強会の準備を進める中で「もし他に理由があるとすれば、それは何？」と、問題提議を起し、それを受けて青年委員会内で話し合った結果、次のような仮定を導きだしました。

多くの青年建築士が望む勉強会とは「教えてほしい事を教えてもらう」という当たり前の事にプラスして、『わからない』という悩みを打ち明ける事が出来る勉強会「すなわち「対話」出来る勉強会」ではないだろうか。

仮定の正否を検証する為に、という少々大袈裟に聞こえますが、そのような道程を経て、今回の勉強会では参加者同士が「対話」出来るように「ワールドカフェ」という手法を取り入れて頂きました。



ワールドカフェの様子(各テーブルでの座談)

「RC造現場監理の講義」・「ワールドカフェによる質問会」のアンケート結果は以下の通りでした。

監理の講義について (テーマ内容は?)	満足 16	普通 4	やや不満 1	不満 0	その他 無回答 1
ワールドカフェについて (各テーブルでの座談は?)	満足 16	普通 5	やや不満 0	不満 0	その他 無回答 1
企画内容について	具体的で良い 21	普通 1	理解できなかった 0	その他 0	
今後同様の企画への参加	参加する 20	参加しない 1	テーマへの提案 無回答 1		
今回の研修を何で知りましたか?	「つどい」案内 5	構造研究会の案内 12	tsudoi メール 3	その他 社内 友人 2	
内容レベルは如何でしたか?	易しい 2	丁度良い 17	やや難しい 3	難しすぎる 0	その他 0

※このほか、アンケートでは研修テーマなどについて貴重なご意見やご要望を賜りました。今後の活動の参考にさせていただきます。

つながっていくということ

多くの青年に参加して欲しいとの思いとは裏腹に青年からの参加者は少なめでしたが、全体では30名程度と丁度良い人数。青年が少ないということで逆に多くの先輩方と席を並べる事になり嬉しい誤算。「青年同士での意見交換」も良いものですが、今回のように先輩方に囲まれての「対話」が出来る機会というものは滅多にあるものではありません。長年培ってきた経験をもとに繰り出される事例の数々は、この先建築の世界に長く携わっていく者として、聞き逃せない話ばかりでした。

建築士会には多彩な職能を有した専門家が集まっているとされています。ということは、建築士会の中には、普段私たちが「得たい」と思うような知識や「知りたい」と思うような経験が溢れているはず。そこにあるのに活用しない事ほどもったいない事はありません。建築士が持つべき知識や経験を効率的に習得していく方法が「対話していくこと」なら積極的に対話が繰り返される環境を整えていけば良いだけの事です。

今回の勉強会は、構造研究会と青年委員会との連携によって生まれたものです。先ほども少し述べましたが、建築士会の中には様々な知識と経験が溢れています。欲するものが青年委員会の中に無くても、探せば建築士会のどこかにはあるはず。今回の場合、探してみると構造研究会の中にもありました。見つけてはみたものの、どうしましょう。

「教えて下さい」、「じゃあ、一緒にやりましょう」意外なほど簡単に話は進みました。(構造研究会さん、ありがとう)

対話することで人とつながり、連携することでつながりが広がっていく。広がっていくつながりの中で情報の発信と吸収を繰り返し、必要な情報を共有していく。つながる事が全てだとは思いませんが、目指すべき姿に近づく為の一つの方法として、今回は有効な勉強会になったと思います。

今回の勉強会をこれっきりにするのではなく次回へつなげていく事も含めて「つながる」事の大切さを痛感しました。

『さあ、みんなでどんどんつながりましょう。』

世代と専門を超えた交流の場 構造研究会 正木恵子

このセミナーは青年委員会と構造研究会が協力し合って実現しました。一見すると青年会員の求めるものにベテランが答える形に見えますが、実は講師を始め参加者も自らの勉強になり、若い方からパワーを頂いています。今後も建築士会の特性を生かしたこのような活動が他の委員会や支部との連携等でも活発に開催されればと存じます。